

揖保川流域委員会現地視察時の説明

揖保川防災ステーション

(バスから降車して説明：揖保川防災ステーション内)

河川管理者 この年表にありますとおり、揖保川は非常に水害が多かったところでございます。近年最も大きい災害といえますと、昭和 51 年に発生したものでございます。昭和 51 年 9 月に総雨量 600 ミリの雨が降って、この龍野の地点で毎秒 2,300 トンの水が出たのが近年で最大のものでございます。その他平成 2 年とか昭和 45 年にそれに準ずるかたちの大きな水害があったという歴史がございます。今あります揖保川の河道でございますが、これは相当西側のほうに移動しております。大体 16 世紀ぐらいに今の河道に定まったということでございます。これが今の揖保川河道でございますが、昔は東のほうに真っ直ぐ流れていたということです。徐々に西のほうへ川筋が移っていったというような歴史がございます。それから、こちらを見てもらいますと分かりますが、子どもたちが揖保川について研究した結果を展示しているものもあります。こちら側にパネルがございますが、その裏の方は、揖保川に生息する生物が観察できるような展示もございます。

防災ステーション 八木氏 さきほど河川展示室のご説明がございましたが、ここは龍野文化会館という建物でございます。そしてこの敷地はいわゆる河川敷でございます。国土交通省さんのご協力を得まして占有許可をもらって建てております。機能としまして単なる文化ホールだけではなく、河川の防災の機能も併せ持ったということで、「揖保川ふれあい水防センター」という言い方もしております。平常時は文化ホールとして劇場としたり、会議をしたりという機能、それから災害時には揖保川ふれあい水防センターとして機能します。このあと水防倉庫を見ていただきますが、先ほど少しお話がありました。が、土砂を保管するなどしています。この展示室は平常時の機能ということで、主に子どもたちが遊びに来て水槽を見たりとか、あるいは本を見るとき、先ほど説明がありましたけど、河川の展示パネルなどが見れます。こういうオープンスペースとして、河川としての揖保川を知っていただくという意味合いの施設でございます。それから、今からご案内しますが、水防倉庫が 2 つございまして、1 つは土砂を置いてあるところ、もうひとつは資器材を置いてある所でございます。あとは、非常時には例えば消防団の待機室あるいは指揮本部とかになります。災害が起きた時、本来は水防本部は役所なり消防署に設置しますが、ここは現地指揮本部ということで、本部指令が出たらここに全部集結し、ここから資器材を調達して現場へ行くことになります。

(バス車内での説明：揖保上頭首工～揖保川大橋付近)

河川管理者 今、揖保川の左岸を走ってますが、右手に見えてますあたりに龍野市さんと一緒に「水辺プラザ」の整備を検討しています。自然を生かしたかたちで整備していく方針で、委員会をつくって、検討していただいています。散策をするようなところ、自然とふれあう

ようなところ、あるいはビオトープのような生物の生息環境とか、いろんなメニューがあると思いますが、ある程度自然を残すという観点で整備していくということで、今検討中でございます。